いりょうのひろば

VOL.167
2019.1.25

愛仁会 千船病院
大阪市西淀川区福町3-2-39 TEL.06-6471-9541

千船病院附属 千船クリニック
大阪市西淀川区佃3−1−11 TEL.06−6471−9549

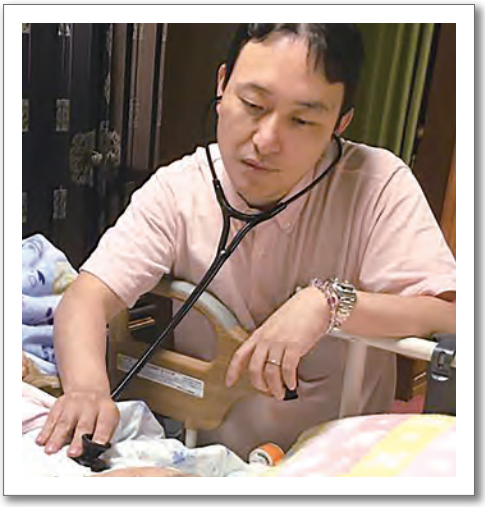
愛仁会 地域ケアセンター
大阪市西淀川区佃2-2-46 TEL.06-6471-3121

千船病院（千船クリニック）は医療を通じて社会に貢献します　千船病院　検索　http://www.chibune.aijinkai.or.jp

高槻病院 ● 高槻市古曽部町1-3-13 TEL.072-681-3801
尼崎だいもつ病院 ● 兵庫県尼崎市東大物町1-1-1 TEL.06-6482-0001
カーム尼崎健診プラザ ● 兵庫県尼崎市御園町54番地 カーム尼崎2F TEL.06-6430-1315
介護老人保健施設「ユーアイ」 ● 大阪市西淀川区佃2-2-58 TEL.06-6471-5236

愛仁会 地域ケアセンターの役割

愛仁会地域ケアセンター　センター長　北 智之



今回は昨年（2018年）7月に開設された『愛仁会地域ケアセンター』をご紹介いたします。

愛仁会地域ケアセンターは、在宅療養をサポートするための部門が一体となった集合体です。ますます進展する高齢化社会において、地域全体での様々な取り組みの必要性が議論されています。私たちはその取り組みを主体的に行い、在宅医療・介護の提供者として地域社会への責務を果たしていきたいと考えています。

■医療における高齢者の特徴とは

それは「複数の治らない疾患をもっている」ことです。高血圧、糖尿病、骨粗鬆症、整形外科的な疾患での腰痛や膝痛、認知症、前立腺肥大や過活動性膀胱による排尿障害などの慢性疾患を持っている方がとても多くいます。さらには、脳梗塞や心筋梗塞などを発症し、治療はしたものの麻痺が残ったり、身体的活動が制限されていたり、病気の後遺症を持っている方も多くいます。病気なんてしたことがないという方にも、加齢に伴う衰え、つまり老化は確実に起こってきます。耳が遠くなってくる、老眼になる、少しの運動でも息が切れる、物忘れが増えるなど、病気ではなくても身体の機能は落ちていきます。病気をきっかけとして衰えが起きることがありますし、逆に衰えから病気やけがも起こりやすくなります。結果として複数の病気と衰えが混在している、これが高齢者の医療的な特徴です。

つまり、高齢化社会とは、「完全治癒が不可能な病気や衰えとつきあいながら生活する人が増える社会」と言い換えることができます。治る病気に対しては、医学的に定まった治療法があります。一方で治ることのない病態に対しては「これが唯一の正解」という治療法は存在しません。ましてや、衰えに対しては治療方法自体が存在しません。その人の価値観や人生観、死生観、置かれた家庭環境や社会環境、経済的な問題、暮らす場所、などによって治療・介護の方法や目的は変わってきます。このように、高齢化社会では1人ひとりが希望する医療・介護の内容や、療養する場所に対する希望が多様化しており、その希望を最大限尊重した医療・ケアをいかに実践するかということが重要なテーマとなってきます。「病気を治す医療」から、その人が自分らしい暮らし方をするために「病気や衰えを抱えた人を支える医療」への転換が求められているのです。ここで、「支える」というのは身体的なことだけを指すのではなく、その人が希望するように「意思決定支援」を行うことを意味します。

【2面へつづく】

【1面からのつづき】

■愛仁会地域ケアセンターの理念

「私たちは在宅医療と介護を通じ、希望する場所で、患者さまとそのご家族が安心して、有意義に過ごせる地域社会を目指します」

住み慣れた地域で、家で、ここと決めた施設で、あるいは一時期を病院で過ごしたいという方もいるでしょう。家で過ごすことを希望される方には在宅医療や訪問看護や訪問リハビリを提供し、介護保険を利用できるようにケアプランを立て、生活をサポートするといったことが重要になります。また、体調悪化などで病院受診が必要な時にはスムーズに受診したり入院ができるように、施設への一時的あるいは恒久的な入所を希望されるならその手続きをサポートするというような、医療機関や施設などと「つなぐ」役割を担う存在も重要です。こういった役割を果たし、地域の人々をサポートするのが愛仁会地域ケアセンターです。病院や施設などといった地域の

様々な資源を活用して、その地域で病気や衰えを抱えつつ生活する人の希望を最大限尊重した意思決定支援を行い、それに基づいたプランで医療・介護的ケアを実践する。これが私たちが理想とするあり方です。

具体的な仕事内容もご紹介したいのですが、紙面も尽きてきましたので次の機会にさせていただきます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

人工関節「健歩の会」（患者会）｜バス旅行開催のご報告

千船病院 整形外科 部長 関節センター長　鄭 克真

放っておくと怖い、お年寄りの関節痛『変形性関節症』

日本では膝（ひざ）関節だけでも約800万人の方が患っていると言われており、予備群（症状はなくても既に関節の変形が始まっている人）を含めると約3,000万人にのぼると推定されています。

変形性関節症は放っておくと寝たきりの原因にもなります。実際に変形性関節症が原因で要介護や要支援となる方もおられますが、残念ながら、他の病気（認知症や脳梗塞など）に比べると、そういった行政サービスを受けにくい病気であることも事実です。ですから、関節痛をあきらめずにしっかりと治療を受けることが大切です。

変形性関節症の治療

変形性関節症の治療には薬やリハビリ治療がありますが、関節の変形が進むと、手術の加療も必要になることがあります。「人工関節手術」という治療です。アメリカや他の先進国に比較すると、日本ではまだまだ受け入れられていませんが、医療の進歩と共に以前に比べてより安全で安心して受けられる治療になっています。

健歩の会（患者会）の取り組み

当院の関節センター、整形外科では、この人工関節手術を受けられた患者様を対象とした「健歩の会」という術後患者会を運営しています。術後の不安を少しでも和らげてもらえるように勉強会などを行ってきました。さらに、歩けるようになった喜びを少しでも多く実感して頂けるように2016年から術後の患者様やそのご家族を募りバス旅行のレクリエーションを行っています。当院の整形外科医師、看護師、理学療法士と共に日帰りバス旅行の中で、術後の患者様には歩けるようになった喜びを感じてもらっています。これまで六甲山、淡路、滋賀、京都、丹波篠山に年に2回のペースで行ってきました。病院の職員が帯同しますので、安心して旅行を楽しんでもらうだけでなく、職員や同じ手術を受けられた患者様同士で日常生活の相談や共有ができるようにしています。

参加された患者様やご家族には大変好評を頂いています。「専門職の人たちが付き添ってくれるので、安心して旅行を楽しめる」、「手術を受けたらお終いじゃなく、こうやって病院の人が見守ってくれていると思えるのが良い」や、「夫も介護が必要で、一緒に参加することで職員の人に夫を手伝ってもらえた、旅行できたのは久しぶり」など、とても喜んで頂いています。

70歳以降の方のアンケート調査で、自分が一番したいことは「旅行」という結果があります。子育てや孫の面倒を見る、そういった使命が一段落した年頃で、やっと自分のしたいことができるようになった頃に、関節痛のために旅行に行けない方も多くいます。我々、当院の職員は、これからも、そういった方々の少しでも力になりたくて止みません。

連載

専門看護師・認定看護師に聞く⑩

あなた自身のために、あなたの大切な方のために

覚えてください「緩和ケア」

“がん”に罹患する方は年々増えており、日本人の死因で最も多い病気です。現在、3人に1人が”がん”で亡くなっています。がん患者さんは、痛みなどのがん自体の症状のほかに、倦怠感や呼吸困難感、浮腫などのさまざまな身体的な症状や、気持ちの落ち込み、悲しみなどの精神的な苦的な苦痛を抱えています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、社会福祉士が患者さまとご家族が抱える苦痛に対応させていただきます。

また、平成30年春より末期心不全の患者さまも緩和ケアの対象となりました。”がん”の患者さまと同様に苦痛を和らげるケアを多職種チームで提供させていただきます。

薬剤師

がん治療や、痛みをはじめとする様々な症状をコントロールするためのお薬についてご説明します。

医師

主治医（担当医のほかに、緩和ケア担当医（がんに伴うさまざまな症状をコントロールする医師）がいます。

理学療法士

がんの進行などで、今までのように体が動かなくなったときに、残された機能を最大限に活用して生活が送れるよう、リハビリを行います。

看護師

外来看護師・病棟看護師のほかに、緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師（緩和ケアやがん化学療法看護に関する専門的な知識・技術をもった看護師）がいます。

管理栄養士

がんの治療に伴う副作用（食欲低下、口内炎）などで食事が進まない時の、どのように食事をとったらよいかアドバイスさせていただきます。

医療ソーシャルワーカー

患者さまとご家族の生活全般（経済面、福祉制度、在宅療養、訪問看護、ホスピスを含む転院先との連携・調整など）をサポートします。

当院の緩和ケアチームです

千船病院で行っている緩和ケア

＜緩和ケアチーム回診＞

メンバー：緩和ケア担当医師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、社会福祉士

回診日時：毎週水曜日の15時から開始

対　　象：千船病院に入院中の末期心不全患者さま、がん患者さまとそのご家族

＜緩和ケア外来＞

外来担当：緩和ケア担当医師、緩和ケア認定看護師

外 来 日：毎週火曜日の14時～17時

対　　象：当院に通院中の末期心不全患者さま、がん患者さまとそのご家族。他病院に通院中の患者さまは通院している病院の医師に相談いただき、地域医療科を通じて受診可能です。

地域医療連携

診療科目
内科・小児科

開放型登録医紹介 VOL.18

ファミリークリニック なごみ

院長　長 哲太郎
〒532−0031
大阪府大阪市淀川区加島4−2−17
TEL.06-6300-5517
ホームページ　http://www.yodokyo.or.jp/nagomi/html/shinryo.html

診療所の特徴

ファミリークリニックなごみは、2006年にオープンしたクリニックで西淀川区竹島にあった旧竹島診療所を引き継いで診療しています。赤ん坊からお年寄りまで、診察室から居宅まで、幅広いニーズに応えたいと思っています。また無料定額診療事業や無料送迎サービスも行っています。お気軽にご相談下さい。

院長ご挨拶

初期研修の医師1年目の時から、当クリニックで診療してきました。最近では近隣小学校で喫煙防止教室をさせてもらうなど、地域との関わりの中で地域に育ててもらっています。皆様に信頼されるクリニックであるように努めて参ります。

千船病院との連携について

病院機能が充実しており、当院からも患者様を紹介させてもらうことが多いです。今後ともより一層の病診連携をよろしくお願い致します。

◆従事医師

穐久 英明　呼吸器専門医、身体障害者福祉法指定医師（呼吸器）
蓮間 英希　日本プライマリケア連合学会、家庭医療専門医
大谷 紗代　日本プライマリケア連合学会、家庭医療専門医

◆その他

診療機能：往診／訪問診療（24時間体制）／終末期医療
英語対応
看 護 師：6名
施設機能：バリアフリー／車椅子／駐車場5台／患者送迎バスあり
そ の 他：健康診断／健康相談

診 療 時 間

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後	14:00~16:00		○				
夜間	17:30~19:30	○		○		○	

※月～土曜（第3土曜日除く）午前は、家庭医が小児診療を行います。
※夜間診療では、小児についての診療は、相談頂いてからになります。
※火曜日午後の小児科はワクチン予約外来です。
　ワクチンには限りがありますので、事前にご相談下さい。

院長 長 哲太郎

医師の紹介・経歴

大阪府堺市出身
長崎大学卒業
西淀病院にて初期研修
大阪家庭医療センター後期研修
札幌市の医療機関でフェローとして勤務
ファミリークリニックなごみ院長